



貪欲の帝国 The Empire of Shame

“18歳の青い夢、私たちは埃のように消えていく”

サムスン半導体工場の隠された真実

貪欲の帝国 2014 / The Empire of Shame

演出: ホン・リギョン

制作: プルン映像

配給: (株)シネマダル

上映時間: 92 分

日本語字幕: 安田幸弘

SYNOPSIS

誰もが羨む夢の職場

そこで私は白血病にかかった...

勤労福祉公団の前は今日も変わらず騒がしい。

遺影を持って「労働者の死は重要ではないのですか？」と叫ぶ人々は

扉の前で彼らを制止する職員とぶつかる。

突然発症した白血病で未来への夢をあきらめなければならなかったファンユミ、

脳腫瘍の手術の後遺症で涙を流すことも、話をすることも、歩くこともできなくなったハンヘギョン、

残された1年間で見る事ができるものはすべて見たいと病気の体を起こすイユンギョン、

仲間の死を悲しむ暇もなく、乳がんの宣告を受けたパクミンスク、

高卒で大企業に入社して胸を膨らませていた娘を見送ったファンサンギ、

二人の子供のために必ず夫の死の責任を追求するというチョンエジョン...

彼らはまだ目の前の死を受け入れることができない。

世界的な超一流企業サムスン。十分な報酬。

誰もが羨む職場だった。

埃一つない部屋、誰もが同じ服を着ているその場所は、「未知の世界」だった。

強い臭いが鼻を突き、トイレに行く暇もなく機械に向かい、

「成果給 1000%」の前で何も不満はなかった。

あれほど一生懸命に働いたことが罪だったのか。

「死」という空しい報酬の前で途方に暮れる彼らは、

無念の死を究明するために、超一流企業の隠された真実を暴き始めた。

監督 ホン・リギョン

フランスの映画学校でドキュメンタリーを専攻して「プルン映像」に入り、初の長編としてサムスン職業病に関するドキュメンタリー「貪欲の帝国」を製作した。

これまでの作品には、労働者の足をイメージモニター形式にした“V tuje zemlyu”、書店を背景として本の中の言葉を使い、混乱したと思った 20 世紀末の理念地形図を描く「遠い友人に」などがある。



制作 プルン映像

プルン映像は、カメラを通じて健康的な世界を作ろうとする人、頭や技術ではなく、「気持ちと足」で世界と出会う人、資本とシステムによる大きな作品より、本当の話をしたい人が集まって 1991 年に結成したドキュメンタリー製作集団。統一・労働・貧困・環境・女性など、様々な社会問題と隣人の生活を記録し、歴史と社会についてバランスよい視点を提供するために努力している。

パノルリムとサムスン労災問題

2007 年 3 月 6 日、半導体工場で働いていたファン・ユミさんが白血病で死亡したことをきっかけとして、同年 11 月に半導体労働者の健康権を守ろうという趣旨でパノルリムが結成された。

パノルリムは勤労福祉公団に対し白血病の労災認定を申請したが、公団はこれを拒否したため行政訴訟を行い、2009 年と 2011 年、そして 2013 年と連続して裁判所から労災に当たるという判決を受けている。しかし、勤労福祉公団は判決を不服として控訴、この過程でサムスンの介入があったという。

2013 年 12 月、サムスン電子とパノルリムは、ファンユミさんの死亡から 6 年目に交渉を始めた。交渉代表はファンユミの父、ファンサンギが担当した。パノルリムは、サムスン電子側が半導体労働者の疾病を個人的な事由とし、会社側の責任を回避していると主張し、サムスンの誠実な交渉を要求している。

2014 年 5 月 14 日、サムスン電子はこれまでの主張を翻し、労災を認めて被害者への謝罪を発表し、交渉に応じるようになった。2014 年 6 月、サムスン電子と労災被害者/パノルリム側は 3 回目の交渉を行ったが、補償の範囲などの重要な争点で合意できず、今後も交渉を続けることになった。

3 月現在、白血病をはじめとする韓国全体の半導体企業での被害事例は 243 人で、このうち 92 人が死亡している。このうち 192 人、死亡者 73 人がサムスン系の会社で働いていた。

登場人物

ハン・ヘギョン

サムスンLCDで働き、体調不良により2001年に退社。その後、2005年に脳腫瘍と診断された。腫瘍の除去手術の後遺症により、歩行障害1級、視力障害1級、言語障害1級の障害者になった。



キム・シニョ

ハン・ヘギョンの母。超一流企業、サムスンに入社したハン・ヘギョンは、彼女の自慢の娘だった。サムスンのために病気になった娘の面倒を見るとともに、リハビリやサムスンへの労災認定を要求してパノルリムで戦っている。かつては夫も息子もいたが、今では家族は崩壊してしまったという。



イ・ユンジョン

2003年に退社した彼女は2010年5月、脳腫瘍と診断された。残された時間の限り、この世界を見ておきたいと語る。忠清南道の高校を卒業してすぐ工場に入り、結婚した彼女は、まだ清溪川、仁寺洞、東大門、南大門…日本でもよく知られたソウルの名所を訪れたことがない。



チョン・ヒス

イ・ユンジョンの夫。妻が死ぬ前にぜひ「労災が認定されたよ」という一言をいいたいと、サムスンを相手に休むことなく戦い続けてきた。妻が死んだ後も、彼女の名誉のために、サムスンの責任追求を続けている。



パク・ウムスン

ハン・ヘギョンのサムスン時代の同僚。ハン・ヘギョンの労災認定の裁判を手伝っている。



チョン・エジョン

あくまでもサムスン電子に対して夫、ファン・ミヌン氏の死の責任を追求し続けたいというチョン・エジョン。

ファン・ミヌン氏はサムスン半導体でエンジニアとして働いていたが、2004年に白血病と診断され、2005年5月に死亡した。



ファン・サンギ

「サムスン白血病」が知られるきっかけになった故ファン・ユミの父親。サムスンに対し、娘の死が工場で使用していた薬品が原因だったことを認め、娘に対する謝罪を求めて、戦い続けている。ファン・サンギ、ファン・ユミはサムスン白血病を扱った劇映画「もうひとつの約束」の主人公にもなった。



ソン・チャンホ

サムスン半導体温陽工場でエンジニアとして勤務し、化学物質を扱っていた。2008年にリンパ腫と診断された。



パク・ミンスク

1991年から7年間、サムスン半導体で働き、退社後、2012年に乳がんと診断された。画面で常に帽子をかぶっているのは、撮影当時、抗癌治療により髪の毛が抜けていたからだという。



イ・ジョンナン

パノルリムの労務士。

2007年、ファン・ユミ氏の死亡をきっかけにコンユ・ジョンオク氏などと共にパノルリムを設立し、サムスン半導体工場での白血病をはじめとする労災問題に取り組んでいる。パノルリムの中心的存在。



コンユ・ジョンオク

パナルリムの活動家。韓国労働安全保険研究所研究員。



チェ・ミン

聖母病院職業環境医学科専門医。

パナルリムなどとともに、電子産業に従事する女性労働者の問題を考える会を主催している。



イ・ソンオク

サムスン半導体で働いていた。映画の中ではあまり姿は登場しないが、工場内の様子や寮での生活などについて語っている部分でしばしば声で登場する。



チェ・ウス

サムスン電子副社長。



シーン解説

防塵服を着た労働者たち

防塵服は、労働者を有害な薬品から守るためではなく、労働者が飛ばす埃から製品を守るためにある。

規格化された防塵服で目以外はすべて覆われた彼女たちは、それでもきれいなハート型になるように帽子のかぶり方に工夫を凝らす。



サムスン電子半導体器興社員寮

工場に隣接した敷地にレンギョウ、ライラックなど花の名前が付けられた社員寮が並ぶ。この社員寮には高校を卒業したばかりの多くの若い女子工員が入寮する。



社員寮から見える工場

寮は工場に隣接した敷地にある。

社員寮からは工場が見える。



サムスン電子器興工場

巨大なサムスンの工場。窓もない工場の中で、多くの労働者たちが命を削りながら働いている。



セミ山

工場の裏山は「セミ山」と呼ばれ、入社前の訓練場になっている。ここで入社する高校生たちは命令に従うことを学ぶ。

訓練場には「サバイバル訓練場」という区域もあり、スパルタ式の厳しい訓練が行われる。



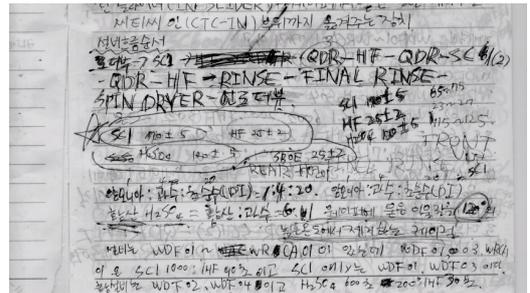
コンテナヤード

世界各地に輸出される製品を運ぶコンテナの山。彼女たちが作ったサムスブランドの電子製品は、この港から船に積み入れ、世界各地に送り出されていく。2012年のサムスン電子の売上は日本円換算で約2兆3千億円、史上最高の売上を記録した。



メモ・日記

仕事の手順がぎっしりと書き込まれたメモや日記からは、彼女たちの生活が感じられる。高度な作業をこなすために一生懸命勉強し、メモを取り、ミスを反省し、しっかりやろうと決意する若い彼女たち。スケジュール表には給料日、家に帰る日などが読める。日記の中に書きつけられた恋心、職場生活の記述が印象的だ。



勤労福祉公団前での抗議行動

サムスンLCD工場で働き、2012年、56人目の白血病で亡くなったユン・スルギ氏の労災認定を求める記者会見。労働者のために活動すべき勤労福祉公団は、サムスンの利益のために彼らの労災申請に不認定と判定し続けている。この後、労災認定を求める労働者たちは理事長との面会を求めて公団に入るが、職員により制止されてしまう。



裁判の準備

ハン・ヘギョンの裁判に提出する書類を準備する。内容を確認し、細かい部分に間違いはないか、労務士のイ・ジョンナンがチェックする。



裁判の打ち合わせ

ハン・ヘギョンの裁判を控えて入念に準備する。この場面は弁護士事務所で裁判で証言する元同僚のパク・クムスンとの打ち合わせ。工場はどんな様子だったのか、どのような作業をしていたのかを綿密に打ち合わせる。



裁判所にて

建物は裁判所。ハン・ヘギョンの裁判で証人として証言したパク・ウムスンが休廷時間にハン・ヘギョンと会話する場面。



有害物質の調査

サムスン電子は有害物質は使用していないと主張する。サムスンが嘘をついていることを証明するために、パノルリムは半導体製造ラインのプロセスを調べ、どのような薬品が使われているかをひとつずつ調べ、立証していく。



サムスン本社抗議行動

ファン・サンギ氏はサムスン電子本社に対する抗議行動を続けている。ビルに入ろうとするファン・サンギは、しかし常に警備員に押し戻され、会社の前は蛇腹の柵で閉じられてしまう。



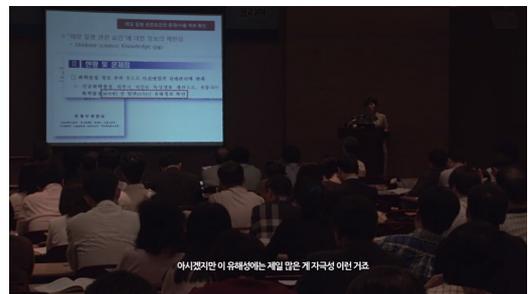
国会証言大会

パノルリムの活動は国会議員を動かした。シム・サンジョン議員が中心となって開いた院内集会では、サムスン半導体で働き、病気にかかった当該が証言し、社会的な注目を集めた。



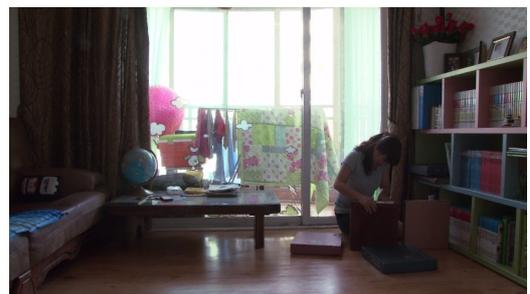
安全保健セミナー

職業病に関するセミナーでパノルリムがサムスン半導体問題について発表した。しかし会社側の人物が発表内容について異議を申し立てる。



チョン・エジョン氏のアパート

2人の子とも暮らすアパートの一室で、31歳で亡くなった夫の思い出を語る。アパート6階の部屋で彼女はまた、エレベーターが6階で止まると、口笛を吹きながら夫が帰ってくるような気がする。



電子産業女性研究会

半導体などの電子産業での生産工程に従事する女性労働者の労働条件や健康の問題に取り組む。立場が弱く、十分な知識を与えられていない女性労働者たちは、自分が置かれている環境の問題を正確に把握できない。パク・ミンスクはそんな女性労働者の問題に興味を持ち、リプロダクティブ・ヘルスに関する研究会に出席する。



病床のイ・ユンジョン

脳腫瘍に侵されたイ・ユンジョンは、もう目を開くこともできない。それでも彼女を見舞いに来てくれた人に挨拶をしようと、懸命に手を上げようとする。



葬列

脳腫瘍の診断を受けて2年後の2012年5月5日、イ・ユンジョンは永眠した。10日、サムスン電子本社前でイ・ユンジョン氏の葬儀を行うため、遺体を乗せた霊柩車が本社前に進むと、待ち構えていたサムスンの社員が妨害する。参列者を乗せたバスの中で案内していたファン・サンギ氏は、霊柩車が左折するのを見て急いでバスを降り、あくまでも本社前に行くよう主張する。



サムスン本社前での路祭

遺族の激しい抗議により、本社前での葬儀(路祭)を行うことができた。路祭は、韓国の葬儀のひとつで、故人のゆかりの場所で故人を追悼し、魂を慰める儀式だという。

路祭はデモや集会ではない習俗的な行為であるため、当局への申告や許可などは不要で、通常、自由に行うことができるが、韓国の社会運動ではしばしば路祭が一種の抗議デモの様相を帯びることがある。



ミーティング

サムスン側からの和解提案について被害者側とのミーティング。裁判で労災認定を求める原告側の勝訴が続き、サムスン側が最高裁での判決の前に和解を提案してくる可能性が高まった。パノルリム側の対応を協議するために原告を集めて会議を開いた。

原告側弁護士は、労災の立証の難しさ、最高裁で敗訴する可能性についての情報を提供した。有利な条件で金銭的な和解をするか、それともあくまでも最高裁の判決を待ち、サムスンの謝罪と労災認定を勝ち取ることを選ぶか、原告側は難しい選択を迫られる。



サムスン本社前集会

サムスン一般労組、パノルリムなどがサムスン電子本社前で集会を開いた。これまでサムスン側は被害者による集会申告に対し組織的な妨害を続けてきたが、裁判所は労組側の主張を認め、初めて本社前での集会が可能になった。



フッ酸漏出事故

京畿道華城のサムスン電子の半導体工場で、半導体の製造に使用するフッ酸ガスが漏出し、死傷者が発生した。当時、サムスン電子は猛毒のフッ酸漏出に関する情報を隠し、強い非難を受けたがこの事故の数か月後、またフッ酸漏出事故を起こした。二度にわたる有毒ガス流出で、サムスン電子の対応に社会的な非難が高まった。



サムスン国政監査

サムスン電子側から出席したチェ・ウス副社長をはじめとする参考人は、2012年に行われた国政監査で虚偽の陳述を並べ、被害者の怒りを買った。ハン・ヘギョンはそんな副社長に「一言いいたい」という。



被害者家族歓談

ユッケと焼酎を前に、これまでのエピソードを語り合う。粘り強い社前行動は、少しずつサムスンに通う若い社員たちの胸にも響き始めているという手応えを感じる。家族はサムスン側からの切り崩しに屈することなく、パノルリムを信じてたたかう。



母と娘

母親の言葉に心を傷つけられることがあるという答を聞いて一瞬、言葉を失うキム・シニョ。それでも人生に満足しているというハン・ヘギョン。



卒業式

新しい出発への期待に胸をふくらませる実業高校の卒業生たち。今、病気で苦しんでいるサムスン労災被害者たちにも、こんな一瞬があった。

弾けるような笑顔。サムスンはただ利益を上げるために、そんな若い人たちの夢と努力を搾取する。



本社前集会

希望の歩み参加団と半導体労働者の健康と権利を守る会(パノル リム)が江南駅のサムスン本館前で、「恥ずかしいサムスン」の社会的責任を問うサムスン糾弾記者会見を行った。



中国の産廃処理場

彼女たちが命を代価として作った半導体や電子製品はスクラップになった後、貧しい中国の田舎の村に運ばれる。この産廃処理場でも、スクラップから漏れ出る有害物質による環境汚染、住民の健康への影響が問題になっている。



クラウドファンディング

貪欲の帝国の制作で問題になったのが資金だった。韓国最大の企業で、圧倒的な影響力を持つサムスンの問題を告発するこのドキュメンタリーに出資しようとするスポンサーはほとんどいなかった。また、サムスンは上映にも圧力をかけて上映を妨害、映画評や広告を掲載しようとするメディアには広告引き上げをほのめかすなど、さまざまな工作が行われた。プロデューサーのムン・ジョンヒョン氏はこの映画の封切りに必要な資金をインターネット上のクラウドファンディングにより集めることを提案し、約二か月の募集期間で、目標額 3 千万ウォンを超える 4 千 4 百万ウォン以上を集め、2014 年 3 月に封切りに成功した。